



# 大学と連携 進路に道筋

キャンパスや大学生活の様子を映し出すモニターの画面に、生徒たちは時折笑みを浮かべ、じっと見入っていた。

横浜市南区の青山学院横浜英和中学高校で11月12日、青山学院大学の稲積宏誠・社会情報学部長(60)が「大学での学び」と題して講義した。同中1年の女子生徒(13)は「青山学院大をもっと知りたい」と身を乗り出した。

同校は今年度、学業成績などの基準を満たせば、希望者が優先的に同大へ入学できる系属校になった。2020年度の大学入試改革に向け、漠然とした不安を抱える親や子どもには、大学進学の手助けが見えやすいのが魅力と映る。系属校化が発表されたのは

14年7月。翌春の中学入学生から大学への優先入学制度が準用されることになった。すると、15年2月の中学入

試では、定員1200人に対し、志願者が一気に前年の2.7倍、延べ1619人に急増。16年の入試も15.63人の応募



学校見学の親子らを案内する小久保校長(中央)(横浜市南区の青山学院横浜英和中学高校で)

## ◆近年の大学との提携・連携の例

学校名	大学	内容
麹町学園女子(東京都)	東洋	2017年度の高校入学生から80人の推薦コースを新設
香蘭女学校(東京都)	立教	07年度に系属校化。1学年172人中80人の推薦枠がある
中央大横浜(神奈川県)	中央	10年度に付属校化。18年3月卒業約390人に85%の推薦枠
関西学院千里国際(大阪府)	関西学院	学校法人が10年度に合併。校内基準を満たせば希望者全員を推薦

募があった。今年入学した生徒の父親(49)は「長女は3校に合格したが、青学に進学しやすいからと自分でここを希望した」と話した。小久保光世校長(59)は「手の届く選択肢として青学があるのは大きい」と改めて感じている。

東洋大学京北中学高校(東京都)は15年度から東洋大の付属校になり、現在の高3は在校生209人に対し約170人の推薦入学枠がある。

京北中の14年の志願者は104人。120人の定員に届かなかつた。それが付属校化発表後の15年は387人に増加。石坂康倫校長(64)は「親は大学入試改革に敏感。『子どもに苦労させたくない』という人が多く、東洋大に進学しやすいことが安心感につながっている」とみている。

もっとも、中学受験に詳しい安田教育研究所の安田理代表(71)は「提携は安定的に入

学生を確保したい大学と生徒集めに懸命な中学高校の思惑が一致した結果」と指摘。推薦には学業成績などの厳しい基準もあるとし、「入学後に安心して気持ちが悪むと、希望の学部に進めないこともある。志望校は、子どもの将来をよく考え、進学を想定する大学の学部、学科も見極めて選ぶべきだ」と助言する。

一方、大学への推薦枠はなにももの、教育の面で連携を深めている学校もある。

高槻中学・高校(大阪府)は合併で、経営母体が大阪医科大や大阪薬科大を運営するのと同じ学校法人になり、大阪医大の教授らが高校生に解剖学や法医学を講義したり、中学生に最先端の医療現場を映像で紹介したりしている。元々医師を志す生徒が多く、「生徒の意欲をさらに高めている」(池田祥行教頭)と好循環につながっている。